

令和7年8月12日

【受八議第225号】

八頭町議会議長

川西 美恵子 様

2番 八頭町議会議員

一般質問通告書

小原 徹也

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 義務教育から及ぶ社会について	(1) 本町の「小中学生の教育」について 今、社会や家庭では、「勉強をして、いい学校に行かないと、いい会社に就職できない」と、無意識に教育現場や家庭で言われている。 今回、一般質問の通告するきっかけは、ある被災地の現状を見てきて感じた事と、定年を迎えた70代の方々と話をした中で、『社会の現状は教育にあるのでは?』と言われたので、町長に「八頭町の教育とは何か。」を問うものです。 ここで、教育と勉強とは何かを考えてみたい。 日本は、昔から「修身教育」「道徳教育」の教えがあります。修身では、『忠孝仁義』や年上を敬う、親孝行、友情など。親を大事にすることや年上の方を敬う事です。道徳教育は、友情、公正・公平、誠実とあります。 しかし、新学習指導要領では人間としての在り方より、「知識、技能、思考力、表現力、学びに向かう力」を教えるように指導されています。いま日本では、教育と勉強が混同した結果、5教科学習が教育になっている。 教育とは何か?何が起きているのか?町長の答弁を求めたい。 121 ア 国内では、良い学校（高校・大学等）に行かなければ良い会社に就職できないと、無意識に子供に言うことが、社会にどういう影響や結果を生じさせているのか認識は。	町長

イ 報道調査では、大学等を卒業後は経営者になりたいと答える方が多いようです。社会では在宅等で、仕事ができる環境整備が整えられ、パソコンのキーボードをたたいて仕事する方が増え、汗をかく現場労働より机の上で指示する側を目指す方が増えることで、危惧される事は何でしょうか？

ウ 国内の労働者確保が懸念され、外国の労働者を必要とした社会になっています。この現状が続く労働者の確保ができない結果、社会に何が起きるのか。認識を問う。

エ 国内外の「社会の二極化」で何が起きているのか。隣国では「小学校受験に失敗すれば、その先の人生が決まる」この社会状況は町内で見るとテレビニュースでも流れている。この社会の二極化に警笛を鳴らしているが、本町も他山の火事と捉えるのか？本町にも影響が出ている事と捉えるのか、町長の認識を問う。

オ 町長は、八頭町総合計画に「町民一人一人取り残さない…」と示されていますが、教育が二極化を生みだし、結果的に取り残される住民ができる懸念を考えられたことはありますか。

カ 教育が人口減少や労働者不足の問題に関係するか、関係しないと考えられるのか、認識を問う。

キ 一万円札は長く「福沢諭吉」であった。
町長にお聞きしますが、福沢諭吉が教え説いた、『学問のすすめ』は、「学問とは難しい字を覚えたり、世の中の実際に直接関係のない学問を言うのではない。」と説いており、「修身学とは他人と交わりこの世を渡するのに自然な道理を述べた学問であり、だれもが同じように学ぶべき実学というもの」と説いている。また、自分の子供のために『ひびのおしえ』として子供として心がけるべきことを認めている。
町長はどう、ひも解いておられますか。
まさにこれが教育であり、今の学業の中で置き去りに、なっていませんか。